

第2回 LCV「諏訪圏情報BOX」

- **放送日** 令和4年7月5日(火)、12日(火)
- **テーマ** 大雨時の下水道の適切な利用について
- **出演者** 諏訪湖流域下水道事務所管理課 柳沢 満

○ 聞き手とのやりとり(概要)

(Q) ここ数年、諏訪地域でも大雨の頻度が増えていますが、大雨になると下水道にはどのような影響がありますか？

(A) はい。県内での大雨の影響で記憶に新しいところでは、令和元年10月に千曲川での堤防決壊があり、千曲川流域下水道の終末処理場「クリーンピア千曲」が被災しました。諏訪地域では令和2, 3年と2年連続で大雨が発生し、特に令和3年8月の記録的な大雨の際は、下水道に大きな影響がありました。一般的に呼んでいる「下水道」には、皆さまの家庭や工場等からの排出された汚水を流す「下水道管」の部分と「下水道管」を伝って流れてきた汚水を浄化処理する「終末処理場（呼称：クリーンレイク諏訪）」に分けることができます。昨年8月の大雨時には終末処理場に大量の汚水が流入し、処理能力を超えた分の汚水が下水道管に滞留し家庭などから汚水が流れづらくなったり、一部のマンホールで噴き出すところがありました。平時の1日の汚水の流入量は大体10万立方メートルですが、昨年8月の大雨時には処理能力を超える20万立方メートル以上の汚水が3日続けて処理場に流入しました。

(Q) どうして、大雨が降ると流入量が増えるのですか？

(A) 諏訪地域の下水道は「分流式」と言いまして、本来汚水のみを下水道に流す仕組みになっています。都市部では「合流式」と言って、汚水と雨水を一緒に流す仕組みをとっている下水道もあります。諏訪地域の下水道は供用開始から40年以上経過しているため、下水道の劣化した部分や冠水した道路にあるマンホールの隙間などから雨水や地下水が入り込み「合流式」のようになっている部分があると考えられます。大雨が続くと流入量が増えやすい状況にあるため対応に苦慮しています。

(Q) そうなんですね。どのような対策方法がありますか。

(A) はい。下水道の壊れた箇所を調べ、補修を行う必要がありますが、地下に埋まっている下水道を調査することは容易ではなく、その総延長は県が管理している下水道管が55km、そこに接続している市町村管理の下水道管が1,000km以上あります。このような状況の中で当事務所では、昨年度から下水道管に雨水が流入する系統を絞り込む調査に着手しました。しかしながら、原因の特定とハード面の対策が完了するまでには時間がかかり、一定の期間を要すると考えています。

(Q) 下水道を使っている私たちにできることは何かありますか？

(A) 皆様に協力をお願いしたいことがございます。

大雨時は無理のない範囲でかまいませんので、下水の量を減らすため、節水の励行をお願いします。また、ご自宅の屋根の雨どいの水（雨水）は下水道に流さないようお願いします。

(Q) 最後に、ラジオをお聞きの皆様にメッセージをお願いします。

(A) 下水道は我々の生活にとってかけがえのない大切なライフラインです。未来に向けて、持続的な水環境を保全するためにも下水道を適切に使用していただければと思います。